



やる気の明倫子

重点目標「自ら進んで活動できる子」 目指す学校像「行きたくなる学校 行かせたくなる学校 明倫」

保護者の皆様には、日頃から、明倫小学校の教育活動に御理解と御協力をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、今年度第2回の全家庭・全校児童・全教職員による学校教育アンケート（学校評価）を行いました。御多用の中、御協力いただきありがとうございました。いただいた御意見やアンケートの集計結果等を、これからの明倫小学校の子供のために生かしていきます。

＜学校教育アンケートの考察と今後の取組＞

1 「進んで学ぶ子」（割合は4段階評価A・B・C・Dの内の肯定的回答A・B評価の合計）

(1) 学習内容の理解

子供（授業が分かる）	92.4%
保護者（学習内容を理解している）	79.3%
教職員（基礎・基本が定着している）	92.9%

(2) 表現

子供（自分の考えや気持ちの発表している）	71.7%
保護者（自分の考えや気持ちを伝える力が伸びている）	70.1%
教職員（進んで考えや気持ちを伝える力が伸びている）	85.7%

(3) 読書

子供（進んで本を読んでいる）	78.5%
保護者（進んで読書をしている）	79.2%
教職員（進んで読書をしている）	52.8%

分析・考察

- ・「学習」の項目では、子供は毎日の授業で分かると実感している。反面、保護者の数値は他より低い。授業で分かったことが自然にできるようになるまで、知識や思考等の定着に時間を要するとともに、一方で習得したことは忘却していくこともある。保護者はテストの結果からの判断が主になると考えられるため、他より数値が低くなったと考えられる。
- ・「表現」の項目では、全校の傾向として自分の思いや考えを伝えることに課題がある。その要因として、授業では自分の考えを伝えなくても級友は分かってくれるだろう、公式な場で話す経験に慣れていない、話し方が分からない、等が考えられる。
- ・「読書」の項目では、進んで本を読むことに課題がある。その要因の1つとして、後期は、休み時間に外に遊びに行く子供が増えたことにより、学校図書館の利用が減ったことが考えられる。

今後の取組

- ・基礎・基本の定着に家庭学習も大きな役割を果たすことをふまえ、全校で「内容の基本は『音読・漢字・計算（算数）』（4年生以上は自主学習も）、時間の目安は『10分×学年+10分』」と決めて、継続して取り組む。
- ・表現では、授業の工夫、発表や文章表現の際の語彙力を高めるための取組、話すことや聞くことへの指導を継続する。
- ・読書では、ひまわり〔読み聞かせ〕や図書委員会によるお勧めの本の紹介、静岡県教育委員会が紹介するお勧めの本の紹介、学級文庫の入替等を継続して進めていく。また、メディアコントロールデーには家庭で読む本を持ち帰るなど、読書の推進を図る。

(2) 「心をみがく子」

① あいさつ

子供（友達や家族、地域の人にあいさつをしている）	89.6%
保護者（家庭や地域でもあいさつをしている）	82.8%
教職員（場に応じたあいさつができています）	73.3%

② 黙働

子供（掃除には、黙って集中して取り組んでいる）	83.9%
保護者（手伝いなどの作業を集中して行うことができる）	71.2%

教職員（黙働ができています）	35.7%
----------------	-------

③言葉づかい

子供（場に応じた言葉づかいをしている）	92.4%
保護者（場に応じた言葉づかいができています）	70.1%
教職員（場に応じた言葉づかいができています）	28.5%

分析・考察	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ」の項目では、教職員の数値が他より低いですが、前期の46.6%と比較すると子供の伸びが見られた。その要因として、日頃の教育活動（あいさつをしている姿を捉え価値付けていること、全校集会でのあいさつに関する講話等）、家庭での子供への声掛け等による成果と捉えている。 ・「黙働」の項目では、教職員の数値が他の数値より低くなっている。その要因として、子供は担当区域の手順は理解しているが、昼休みの延長で黙働への切り換えができていなかったり、丁寧に隅々までやることに意識が向いていなかったりすることが考えられる。もちろん、黙々と掃除に取り組む子供も多くいる。 ・「言葉づかい」の項目では、教職員の数値が他より低い。子供の数値が92.4%と高いことから、自分では言葉づかいを気を付けていると考えられるが、「場に応じた」「切り替え」の点では課題があると感じている。メディアやコミック等の影響か、一部であるが、いわゆる「きたない言葉」や「言ってはいけない言葉」を発する子もいる。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつでは、子供が自分に向けてあいさつされている実感が持てるように「名前+あいさつ」を行う。また、場に応じたあいさつとして会釈もあることを教えていく。 ・黙働や言葉づかいについて職員の数値が低く、子供や保護者の見方と開きがある。数値の低くさは、教員自身の指導が浸透していないことの表れであり、重く受け止めている。新年度に向けて、職員の共通理解と共通の指導を続けていく。また、できている子供を認め、褒める指導も並行して大切にしたい。 ・黙働では、どこの掃除場所を担当しても掃除を進めることができるように写真を掲示したり、動画で確認できるようにしたりする。また、掃除の終わりに振り返り（3年生以上）を行い、率先して汚れに気付き、自分の役割を自覚して活動する力を高めていきたい。 ・場に応じた言葉づかいでは、子供の言葉づかいをその場で「この場面では〇〇（このように）と話すといい。」と正したり、よい言葉づかいを褒めたりする指導を粘り強く続けていく。また人前で話す場や相手に応じた話し方ができるよう様々な場を設定し、繰り返し指導していく。

(3)「体を鍛える子」

①体力づくりを続ける

子供（進んで運動したり、休み時間は外で遊んだりしている）	78.3%
保護者（進んで運動に取り組んでいる）	73.5%
教職員（進んで運動したり、休み時間に体を動かしたりしている）	80.0%

②メディアコントロール

子供（約束を家の人と決めて、実行している）	84.0%
保護者（約束を決めて実行している）	86.2%
教職員（メディアコントロールを意識している）	83.3%

分析・考察	<ul style="list-style-type: none"> ・「体力づくり」の項目では、教職員・子供の数値が伸びた。前期は運動会の練習、熱中症対策、天候等により外遊びの機会が制限された。後期は外遊びの機会が増えたこと、感染症対策として行ってきたボールの使用が解禁されたことにより外で遊ぶ子供の姿が多くなったことが要因として考えられる。 ・「メディアコントロール」の項目では、保護者・子供の数値が前期より改善された。その要因として、家庭の働きかけにより子供がメディア（テレビやゲーム等）と上手に関わっていく力を高めるための取組を行ったことが考えられる。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の体力低下や運動する子・しない子の2極化が指摘されている。高学年になると委員会活動や実行委員活動により外に出て遊べる機会も減るため、体育の授業に3分間等の運動能力を高める活動を位置付け実践する。 ・毎月20日を「メディアコントロールデー」に設定する。学校では朝の活動に情報モラルを高めるための活動を位置付け、自分でコントロールしてメディアを活用していくことができる力を高めたい。

